

「橋の動的耐震設計」  
正誤表  
(第1版・第1刷および第2刷に対応)

頁, 行など	誤	正
p.12 解説図-2.3.1	ローカルサイト・イフェクト	ローカルサイト・エフェクト
p.13 3行目	地震道	地震動
p.17 下より9行目	地震動作製手法	地震動作成手法
p.40 5.2の箱書中15行目	$gd$	$g_d$
p.40 5.2の箱書中18行目	部材系数	部材係数
p.59 9.1 一般	落橋防止構造では, 2章に規定する	落橋防止構造では, 第1編第3章に規定する
p.63 10.3, 10.4の解説	.....ためには, 伸縮装置の設置により...	...ためには, 伸縮装置および落橋防止構造の設置により...
p.69 11行目	くい違い変位 $Df$	くい違い変位 $D$
p.72 図-1.1.4		
p.74 3行目	最大値 $I_0$	最大値 $I_0$
p.75 10行目		式番号 (1.1.12) を追加
p.75 下より2行目	作製	作成
p.76 図-1.1.10のタイトル	(1968) <sup>14)</sup>	(1968) <sup>15)</sup>
p.79 図-1.2.1		
p.90 12行目	郡杭基礎	群杭基礎
p.124 1行目	異なる基礎のモデル化による解析事例	異なるモデル化による基礎の解析事例
p.197 5.2 タイトル行	中路アーチにおける橋解析	中路アーチ橋における解析
p.204 下より4行目	評価してする	評価している
p.219 表-1.3.5のタイトル	(入倉 2001)	(入倉レシピ 2001)
p.219 図-1.3.5		
p.223 図-1.4.1 (b)		縦軸ラベルは「絶対加速度応答値」
p.224 図-1.4.2 (b)		縦軸ラベルは「絶対加速度応答値」
p.225 図-1.4.3 (b)		縦軸ラベルは「絶対加速度応答値」

頁,行など	誤	正																																																		
p.252 7 行目	図-3.4.1	図-3.3.1																																																		
p.252 図-3.3.1 の図番号	図-3.3.1	図-3.2.2																																																		
p.253 図-3.3.2 の図番号	図-3.3.2	図-3.2.3																																																		
p.253 2 行目～3 行目	図-3.4.2	図-3.3.2																																																		
p.253 図-3.4.1 の図番号	図-3.4.1	図-3.3.1																																																		
p.253 表-3.4.1 の表番号	表-3.4.1	表-3.3.1																																																		
p.254 図-3.4.2 の図番号	図-3.4.2	図-3.3.2																																																		
p.260 11 行目	せん断力の照査結果を表-3.5.4 に示す。各部位において応答せん断力の平均値はせん断耐力を下回っており、せん断力の照査は性能水準 2 の健全度レベルを満足している。また橋軸直角方向の解析結果において、応答ねじりモーメントはねじり補強鉄筋を考慮しない設計純ねじり耐力を下回るため、ねじりモーメントに対する照査を省略する。	せん断力の照査結果を表-3.5.4 に示す。各部位において応答せん断力の平均値はせん断耐力を下回っており、せん断力の照査は性能水準 2 の健全度レベルを満足している。 また橋軸直角方向の解析結果において、最大応答ねじりモーメントと最大応答せん断力は同時に発生することはないが、アーチリブ部材については安全側の照査となるようにそれぞれの最大値を重ね合わせた照査を行った。照査結果を表-3.5.5 に示す。																																																		
p.261 表-3.5.5 を追加	<p style="text-align: center;">表-3.5.5 アーチリブのねじりモーメントに対する照査結果（橋軸直角方法）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th>スプリング</th> <th>アーチクラウン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ねじりモーメント</td> <td><math>M_{td}</math></td> <td>kNm</td> <td>6 815</td> <td>5 097</td> </tr> <tr> <td>せん断力</td> <td><math>V_d</math></td> <td>kN</td> <td>7 787</td> <td>3 100</td> </tr> <tr> <td>設計純ねじり耐力</td> <td><math>M_{tcd}</math></td> <td>kNm</td> <td>33 096</td> <td>23 057</td> </tr> <tr> <td>設計ねじり耐力</td> <td><math>M_{tyd}</math></td> <td>kNm</td> <td>23 162</td> <td>11 486</td> </tr> <tr> <td>設計斜め圧縮破壊耐力</td> <td><math>M_{tcd}</math></td> <td>kNm</td> <td>59 328</td> <td>40 788</td> </tr> <tr> <td>設計せん断耐力</td> <td><math>V_{yd}</math></td> <td>kN</td> <td>9 653</td> <td>9 795</td> </tr> <tr> <td>構造物係数</td> <td><math>\gamma_i</math></td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td colspan="3"><math>F = \gamma_i[M_{td}/M_{tu\min} + (1 - 0.2M_{tcd}/M_{tu\min})(V_d/V_{yd})]</math></td> <td>0.870</td> <td>0.633</td> </tr> <tr> <td colspan="3">判定 <math>[F \leq 1.0]</math></td> <td>OK</td> <td>OK</td> </tr> </tbody> </table>					スプリング	アーチクラウン	ねじりモーメント	$M_{td}$	kNm	6 815	5 097	せん断力	$V_d$	kN	7 787	3 100	設計純ねじり耐力	$M_{tcd}$	kNm	33 096	23 057	設計ねじり耐力	$M_{tyd}$	kNm	23 162	11 486	設計斜め圧縮破壊耐力	$M_{tcd}$	kNm	59 328	40 788	設計せん断耐力	$V_{yd}$	kN	9 653	9 795	構造物係数	$\gamma_i$	-	1.0	1.0	$F = \gamma_i[M_{td}/M_{tu\min} + (1 - 0.2M_{tcd}/M_{tu\min})(V_d/V_{yd})]$			0.870	0.633	判定 $[F \leq 1.0]$			OK	OK
			スプリング	アーチクラウン																																																
ねじりモーメント	$M_{td}$	kNm	6 815	5 097																																																
せん断力	$V_d$	kN	7 787	3 100																																																
設計純ねじり耐力	$M_{tcd}$	kNm	33 096	23 057																																																
設計ねじり耐力	$M_{tyd}$	kNm	23 162	11 486																																																
設計斜め圧縮破壊耐力	$M_{tcd}$	kNm	59 328	40 788																																																
設計せん断耐力	$V_{yd}$	kN	9 653	9 795																																																
構造物係数	$\gamma_i$	-	1.0	1.0																																																
$F = \gamma_i[M_{td}/M_{tu\min} + (1 - 0.2M_{tcd}/M_{tu\min})(V_d/V_{yd})]$			0.870	0.633																																																
判定 $[F \leq 1.0]$			OK	OK																																																
p.261 13 行目	表-3.5.5	表-3.3.6																																																		
p.261 表-3.3.5 の図番号	表-3.3.5	表-3.3.6																																																		
p.295 図-7.1.1 中段下菱形	レベル 1	レベル 2																																																		
p.304 1 行目および 2 行目		p.302 最終 2 行と同じであるため削除																																																		
p.316 固有振動モード図	図-9.6.1	図-8.6.1																																																		
p.330 線形動的解析結果図	図-9.6.4	図-8.6.4																																																		
p.340 下より 7 行目 $\varepsilon_{a,s}$ の説明	空鋼断面	中空鋼断面																																																		
p.344 下より 8 行目	応答値はタイプ I、タイプ II それぞれの 3 波平均値とする。	重複しているため削除																																																		
p.349	最終行後に追加	<p>尚、塔支承および桁支承のモデル化や落橋防止構造のモデル化とその解析結果に関しては、一部解析条件は異なるが、類似橋梁の検討結果があるので次の参考文献を参照されたい。</p> <p>参考文献 大塚久哲監修：「中径間橋梁の動的耐震設計」[改訂版]，第 7 編鋼斜張橋，2002 年 2 月，九大出版会</p>																																																		
p.366 表-13.3.1 橋軸直角方向 2 次の振動数	10.57	1.057																																																		
p.374 表-13.4.8 の 2 段目	$\mu$ rad)	( $\mu$ rad)																																																		
（第 1 版・第 1 刷～第 3 刷に対応）																																																				
p.129 図-2.5.9（左）	基準変位の入力値 $8.00 \times 10^{-3}$	$4.00 \times 10^{-3}$																																																		